

PALTEK

(証券コード:7587)

2019年12月期 第1四半期 決算説明資料

2019.5.9 (木)

© 2019 PALTEK Corporation. All rights reserved.



本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したもので、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

なお、本資料においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において判断したものであります。

また、実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- ① 国内エレクトロニクス業界の急激な景気変動や需要動向の変化
- ② 仕入先の代理店政策の見直しや再編等により取引関係の継続が困難となった場合
- ③ 不測の事態による当社グループの情報資産が流出した場合
- ④ 為替相場の急激な変動
- ⑤ 新規仕入先商品の立ち上がりの遅れが生じた場合
- ⑥ 顧客の日本国内での製品開発案件が更に海外へシフトし、当社グループの販売活動が及ばない地域へ移管された場合

- ① **2019年12月期 第1四半期
業績結果**
- ② **2019年12月期 業績予想**
- ③ **今後に向けた取り組み**

- ① **2019年12月期 第1四半期
業績結果**

(百万円)	2018年第1四半期		2019年第1四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	8,741	100.0%	7,114	100.0%	△1,627	△18.6%
売上総利益	978	11.2%	887	12.5%	△91	△9.4%
販管費	769	8.8%	804	11.3%	34	4.5%
営業利益	209	2.4%	83	1.2%	△126	△60.3%
経常利益	134	1.5%	△5	△0.1%	△140	△104.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	79	0.9%	△15	△0.2%	△95	△120.1%
1株当たり四半期純利益	7.24円	-	△1.45円	-	△8.70円	△120.1%

主な増減要因

- 売上高の減少は、半導体事業の減少による
- 売上総利益の減少は、売上総利益率は上昇したものの売上高が減少したことによる
- 経常利益の減少は、営業利益の減少のほか為替差損72百万円の発生などによる

(百万円)	2018年第1四半期		2019年第1四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
半導体	8,208	93.9%	6,382	89.7%	△1,826	△22.3%
デザインサービス	475	5.4%	467	6.6%	△8	△1.7%
ソリューション	57	0.7%	264	3.7%	207	361.5%
売上高合計	8,741	100.0%	7,114	100.0%	△1,627	△18.6%

主な増減要因

- 半導体事業は、海外の携帯情報端末向けのメモリ製品が大幅に減少したこと、2018年1月にアナログ半導体メーカーであるリニアテクノロジー社との取引が終了したことなどを受け減少
- デザインサービス事業は、放送機器向けなどの減少により若干減少
- ソリューション事業は、映像配信システムおよび乳幼児呼吸見守りシステムの販売が増加

■ 売上総利益率の減少は、以下の2つが要因

- ドル円相場の変動により、仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額は変動
売上総利益に対する影響額は、
2018年第1四半期では△148百万円（△1.7%分）
2019年第1四半期では △63百万円（△0.9%分）

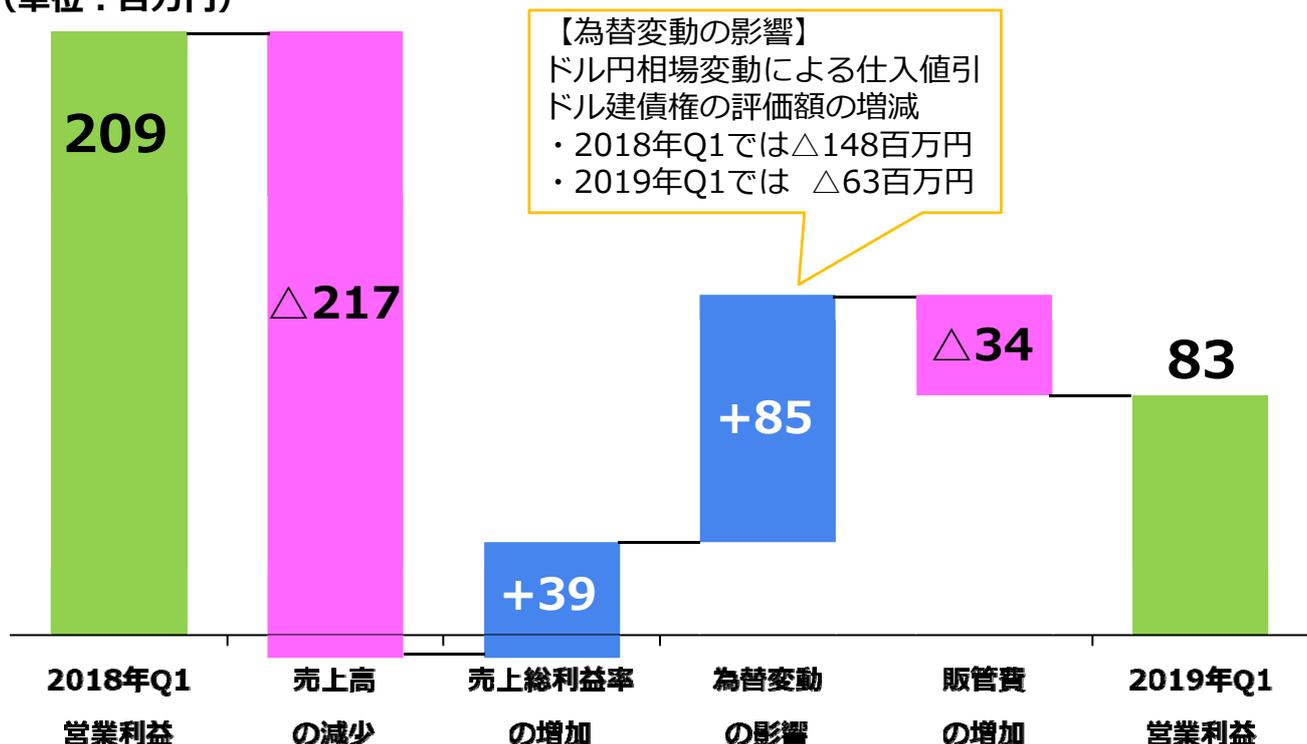
(百万円)	2018年第1四半期		2019年第1四半期	
	金額	対売上比率	金額	対売上比率
売上総利益	978	11.2%	887	12.5%
(うち為替の影響額)	△148	△1.7%	△63	△0.9%
売上総利益 (為替の影響を排除)	1,127	12.9%	950	13.4%

- 半導体事業において、FPGAビジネスで取引形態の変更により、主要大手顧客(一部)の利益率が低下

7

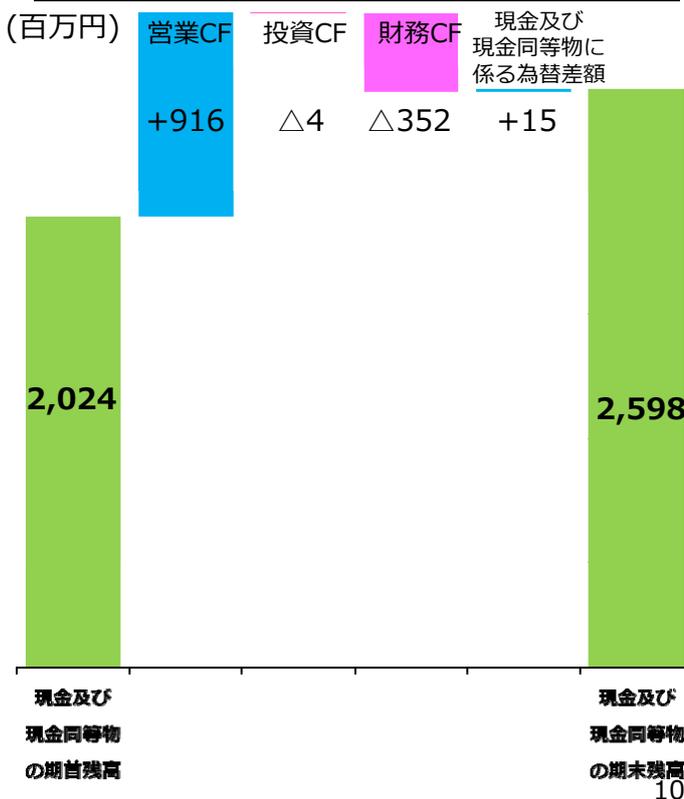
© 2019 PALTEK Corporation. All rights reserved.

(単位：百万円)



	(百万円)	2018.12	2019.03	増減額	主な増減理由
資産内訳	現金及び預金	2,024	2,598	574	
	売上債権	6,354	6,251	△102	
	商品	3,126	3,493	366	
	その他流動資産	1,844	857	△986	未収入金が大幅に減少
	固定資産	497	603	105	
資産合計		13,846	13,805	△41	
負債純資産内訳	仕入債務	945	1,097	151	
	短期借入金	2,010	1,760	△250	借入金返済を実施
	その他流動負債	1,091	1,290	199	
	固定負債	256	240	△16	
	純資産	9,542	9,417	△125	
負債・純資産合計		13,846	13,805	△41	

2019年第1四半期のキャッシュフローの動き



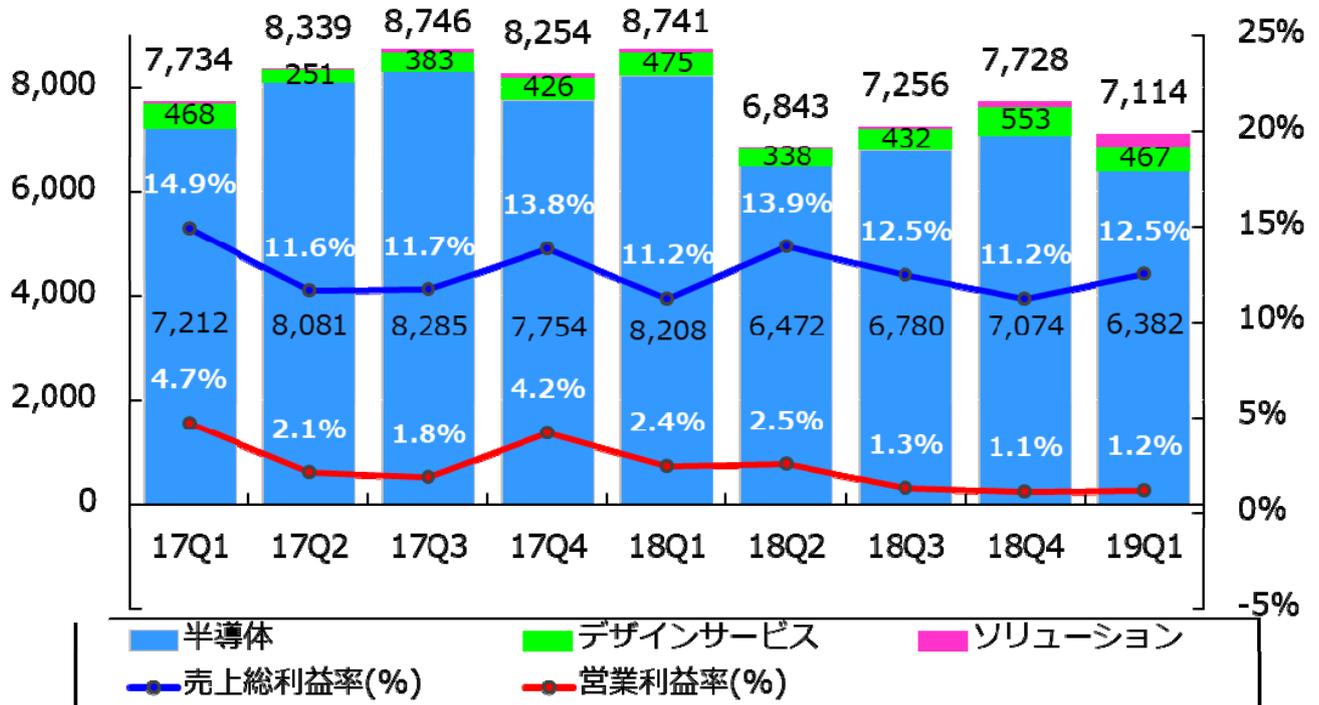
(百万円)	2018年 第1四半期	2019年 第1四半期
現金及び現金同等物の期首残高	2,178	2,024
営業CF	2,681	916
投資CF	△32	△4
財務CF	△2,659	△352
現金及び現金同等物の期末残高	2,140	2,598

2019年第1四半期キャッシュフローの動き

- 【営業CF】 たな卸資産が増加した一方で、未収入金が減少および仕入債務が増加したことなどにより収入
- 【投資CF】 有形固定資産および無形固定資産の取得により支出
- 【財務CF】 配当金支払いを実施したこと、借入れの返済などにより支出

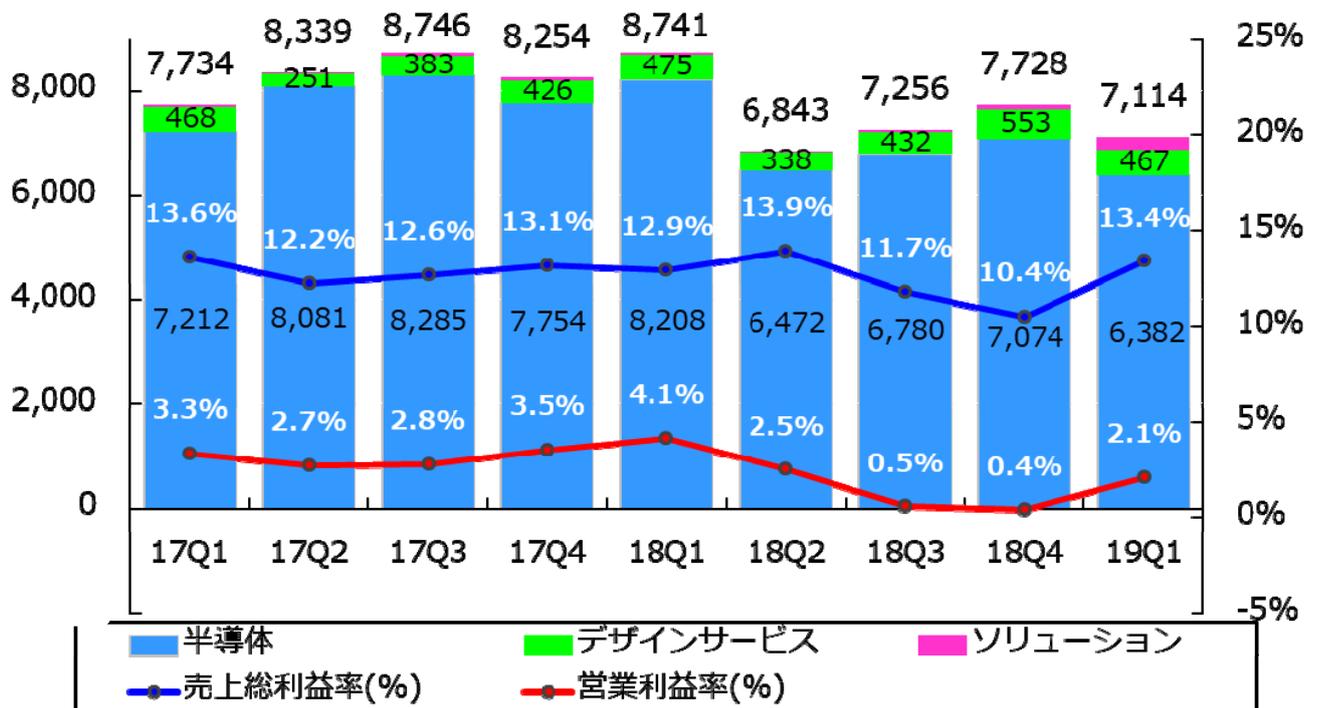
連結業績の四半期推移

(百万円)



連結業績の四半期推移 (為替の影響を除いた場合)

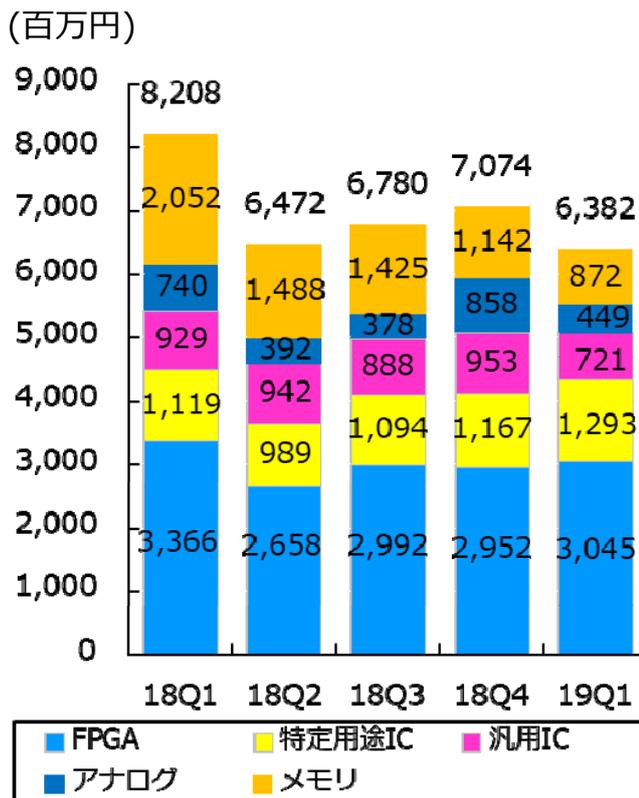
(百万円)



事業別の実績

© 2019 PALTEK Corporation. All rights reserved.

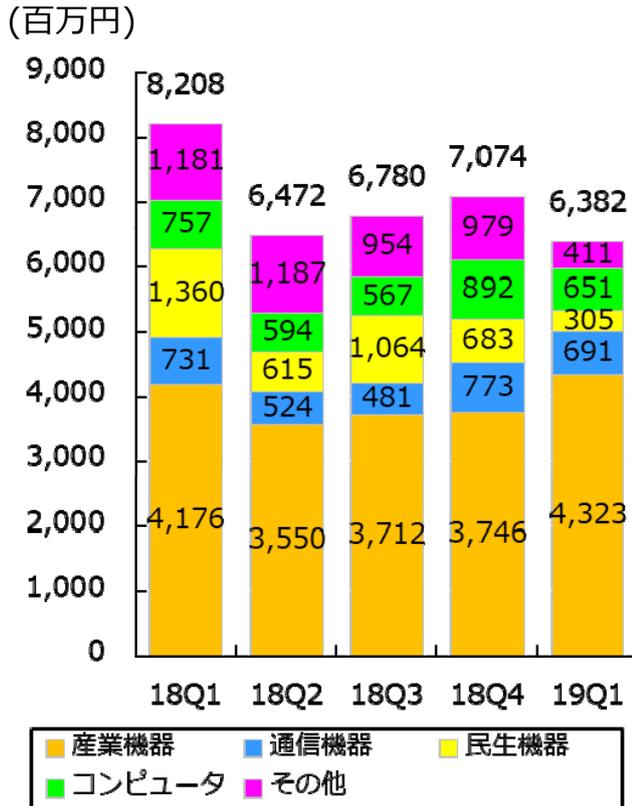
半導体事業の状況（製品別）



業績の推移

- **FPGA**
航空/宇宙分野向けなどが増加
- **特定用途IC**
PC向けタッチパッド製品などが増加
- **汎用IC**
ファクトリーオートメーション向けなどが減少
- **アナログ**
リニアテクノロジー社との取引終了により減少
- **メモリ**
海外の携帯情報端末向けが減少

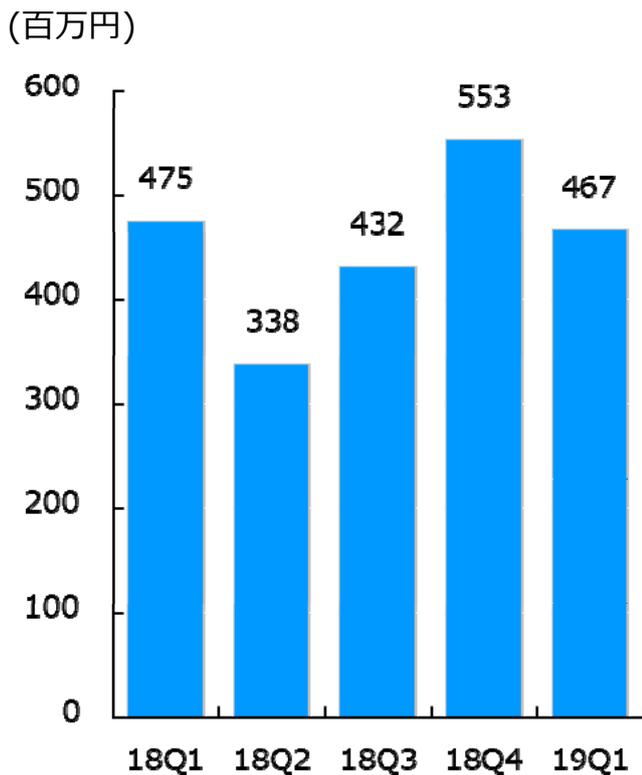
半導体事業の状況 (用途別)



業績の推移

- 産業機器
 放送機器、航空/宇宙分野向けなどが増加
- 通信機器
 ブロードバンド通信機器向けが減少
- 民生機器
 携帯情報端末向けが減少
- コンピュータ
 スーパーコンピュータ向けが減少

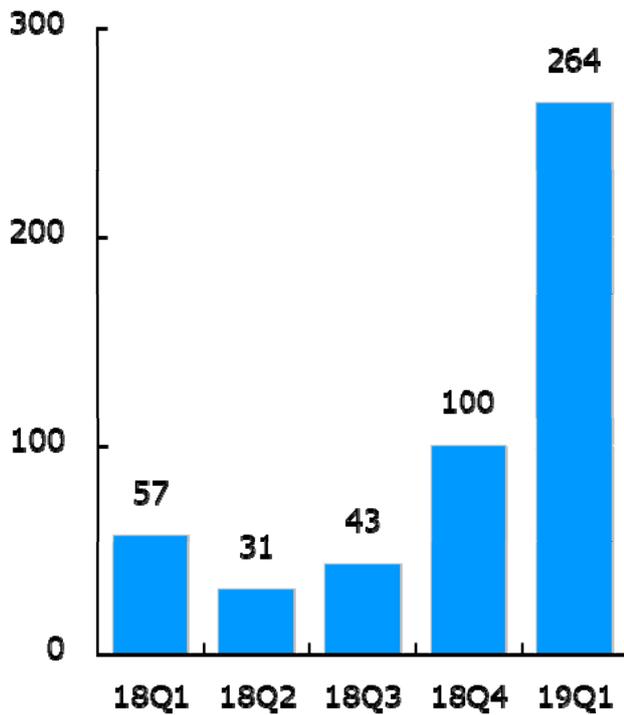
デザインサービス事業の状況



業績の推移

- 航空/宇宙分野向けが増加するも、産業機器および放送機器向けなどが減少

(百万円)



業績の推移

- 映像配信システムが航空/宇宙分野向けに増加
- 遠隔監視向けにIoTゲートウェイが増加
- 乳幼児向け呼吸見守りシステムが増加

2

2019年12月期 業績予想

利益面で第2四半期（累計）業績予想から乖離しているが、事業状況・為替変動の利益への影響を見通すことが困難なため、現時点で業績予想の修正は行わない

■ 第1四半期業績結果の状況

- 第1四半期の売上高および営業利益については、想定を上回って推移している一方で、為替差損72百万円が発生したことにより経常損失5百万円および親会社株主に帰属する四半期純損失15百万円を計上

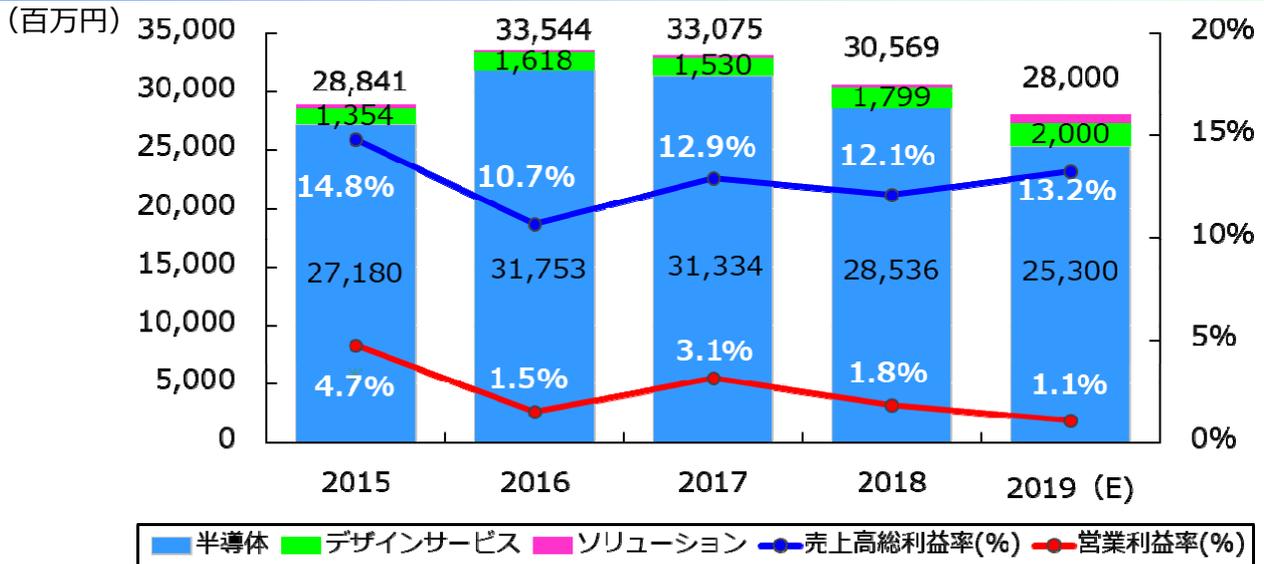
■ 第2四半期（累計）の見通し

- 米中貿易摩擦などの影響により先行きの不透明感が残っており、事業状況についても未だ不透明感が払拭しきれていない状況
- 第2四半期（累計）業績予想の利益が少額であるため、第2四半期での事業状況による利益の変動、および為替変動の利益への影響を想定することが困難であるため、現時点において業績予想の修正は行わない

■ 通期の見通し

- 上記の理由により、通期業績予想の修正も行わない

(百万円)	2018年12月期 実績			2019年12月期 予想			通期増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	15,585	14,984	30,569	13,000	15,000	28,000	△2,569	△8.4%
売上総利益	1,931	1,769	3,700	1,700	2,000	3,700	0	0.0%
売上総利益率	12.4%	11.8%	12.1%	13.1%	13.3%	13.2%	-	-
販管費	1,549	1,592	3,142	1,670	1,730	3,400	257	8.2%
営業利益	381	176	558	30	270	300	△258	△46.3%
営業利益率	2.4%	1.2%	1.8%	0.2%	1.8%	1.1%	-	-
経常利益	227	71	299	30	220	250	△49	△16.4%
当期純利益	133	52	185	20	150	170	△15	△8.5%



- 売上高 : デザインサービス事業、ソリューション事業は増加するものの、半導体事業が減少
- 売上総利益率 : FPGAの利益率が低下するものの、利益率の低い半導体製品の売上高が減少すること、利益率の高いデザインサービス事業・ソリューション事業の売上高が増加するため上昇
- 営業利益率 : モデルベース開発、AIソリューションなどの新規事業への人材投資を継続するため、販売費及び一般管理費が増加し、営業利益率は低下

3

今後に向けた取り組み

【事業環境】

- **AI、ビッグデータ、IoTの活用により半導体市場が拡大**
 - さまざまなモノがインターネットに接続され、IoT関連やデータセンター向けの半導体市場が成長
- **車載分野およびその周辺市場は堅調**
 - 自動運転、電気自動車(EV)が更に発展

取り組み

- **AIソリューションの構築**
- **IoT、データセンター、車載周辺市場などの成長分野に提案力を強化**
(Xilinx、Micron、NXP、Microchip、MPS)

■ 株式会社Ristと協業開始

- Ristは、ディープラーニングや機械学習を活用した画像・動画処理システムを開発。データ解析も手掛け、製造業での目視検査の自動化を得意とし、複数の検査現場での導入実績を有す
- FPGAを活用したエッジAIソリューションで協業し、「推論」だけでなく「学習」を含めたAI導入の支援を行う

<Ristの導入実績>

Case.1 Murakami 鏡の表面検査工程

従来のシステム問題点

画像の色味など数値化一人が閾値を決める

- ① 閾値の設定が困難
- ② 精度60%ほどの対象あり



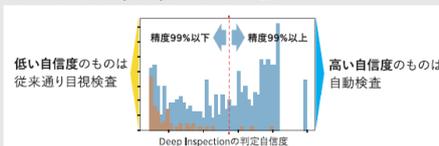
最終的に、検査員が目視で確認

Ristによるアプローチ

多クラス分類の畳み込みネットワーク (CNN) を使用



Rist独自の「Deep Inspection自信度」を開発



試験結果

従来のシステム精度60%

Ristのシステム
精度97%を達成

システム全体のスピードと精度を向上し、目視検査の負荷を軽減

- 全ライン導入後は検品作業員が7割削減
- 海外展開を視野に入れ、検査の自動化により得られたデータから上流工程の最適化なども目指していく

■ 株式会社アジラと協業開始

- アジラは、ディープラーニングを含む機械学習アルゴリズムを用いた画像認識AIシステムの開発、データ解析を手掛ける
- 映像から人の動きを正確に認識する行動認識技術に強みを持つ
- アジラの有するAIを活用した行動認識技術を、FPGAを活用しエッジ端末に搭載し、転倒事故の早期発見や防犯対策などの幅広い分野での展開を目指す

<エッジ化で用途拡大を目指す>



25

© 2019 PALTEK Corporation. All rights reserved.

AI関連の展示会に出展

■ 株式会社ABEJA主催「SIX2019」に出展

- 開催日：2019年3月4日、5日
- 展示内容
 - ザイリンクス社のAlveo™データセンター向けアクセラレータカードの紹介
 - 株式会社デジタルメディアプロフェッショナルのAI FPGAモジュール「ZIA™ C3」の高速推論処理デモンストレーションの紹介 など



■ 「第3回 AI・人工知能 EXPO」に出展

- 開催日：2019年4月3日～5日
- 展示内容
 - 生産現場での品質管理（衣類に対する不良検知）
 - 空間内での安全管理（人物異常行動検知）
 - 収益に貢献する店舗管理（来客数のカウントや年齢・性別の推定、消費者行動の可視化）など

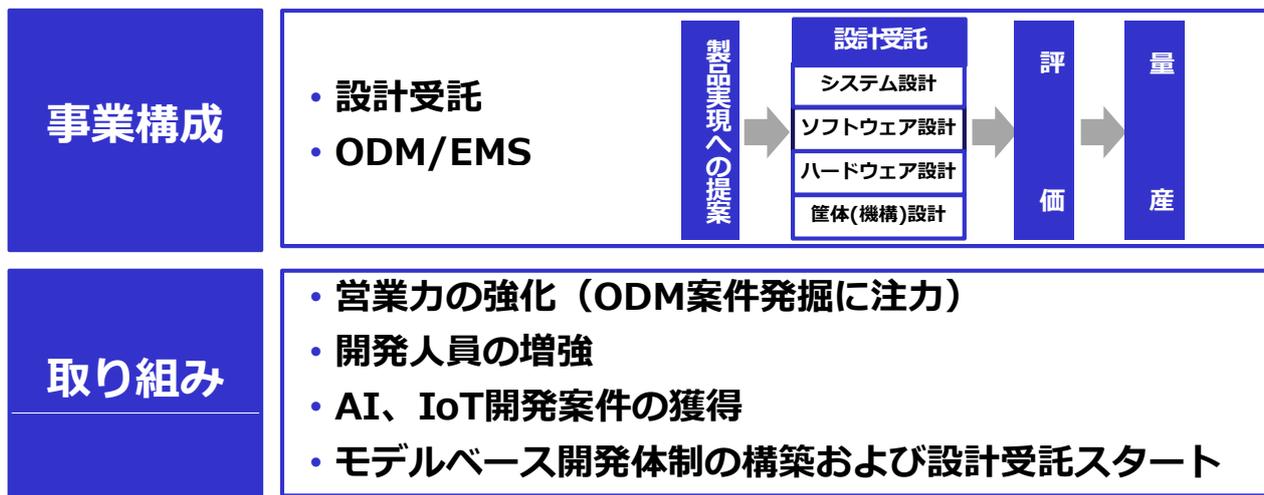


26

© 2019 PALTEK Corporation. All rights reserved.

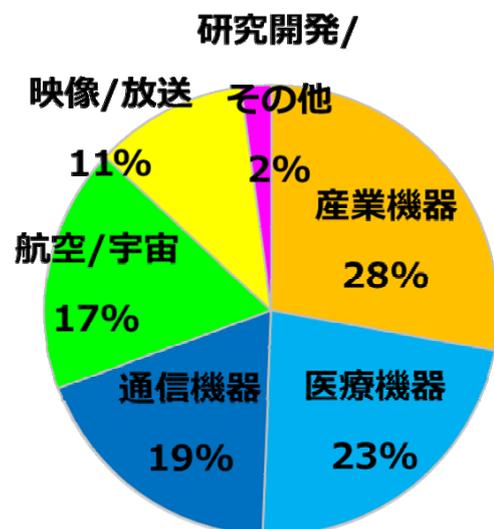
【事業環境】

- ・ 機器自体やそれを構成する半導体などが高機能化・高度化し、すべてをお客様のみで開発することが困難
- ・ お客様は社外リソースも活用し、製品リリースの早期化が必要



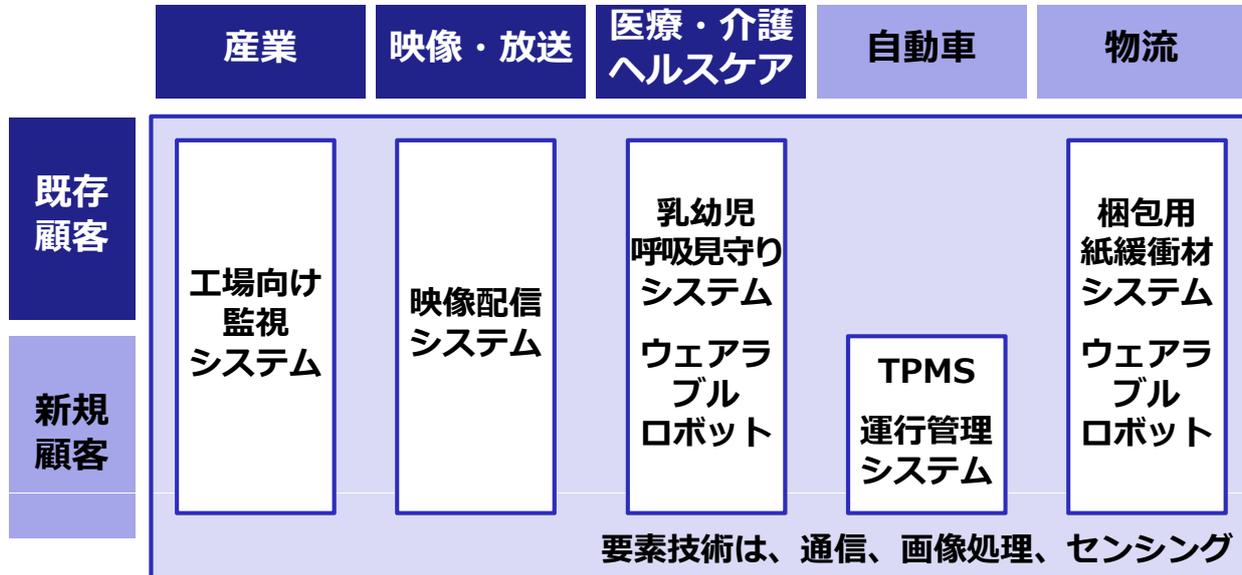
- 引き続き産業機器、医療機器、通信機器での設計受託・ODMが上位を占める
- 2019年Q1では航空/宇宙分野が増加
- ODM比率は約6割で堅調に推移

用途別売上構成（2019年Q1）



■ ソリューション事業の狙い

- 市場拡大が見込まれる分野に注力したソリューションを発掘・開発
- 将来的にIoTやサービス等の付加価値の可能性のあるソリューションを展開



■ ビジネスの位置づけ

- 映像による情報提供ニーズが高まる中、保有する映像処理に関する技術をベースに、映像配信システムを提供
- 自社製品販売だけでなく、OEM供給や他社製品の提供も行う

■ 世界最大の放送機器展「NAB Show」に出展

- 開催日 : 2019年4月6日～11日
- 会場 : 米国ラスベガス
- 海外販売パートナーの開拓、連携強化



SRTプロトコル搭載 4K H.265/HEVC
コーデックシステムを展示



■ ビジネスの位置づけ

LIQUID

- 女性の社会進出を支える「子ども子育て支援新制度」の一環で、乳幼児保育を支援するため、新規分野へ展開
- 当社で開発・製造面も請け負う

■ 保育施設向け乳幼児呼吸見守りシステム「IBUKI ONE」などを提供

- うつぶせ寝による事故防止策の一環で、乳幼児の睡眠中、5分または10分毎に呼吸や体の向きを目視確認して、午睡チェック表に記録
- 保育士の精神的負担を軽減、作業負担を大幅に削減

■ 販売プロモーション

- パートナー企業とも連携し、販促活動を推進
- 第1四半期で、2018年販売実績と同等の販売を行う



31

■ ビジネスの位置づけ

Ranpak®

- 成長すると見込まれる物流分野への事業展開
- 生態系への影響懸念により脱プラスチックが進む中、プラスチック系緩衝材に代わる紙緩衝材活用による物流コスト低減提案
- ストック型ビジネス

■ 「第7回通販ソリューション展 春」に出展

- 開催日時：2019年5月8日～10日
- 大量梱包ライン向けすき間埋め自動梱包システム「AccuFill®」などを実演
- 各物流ニーズにあわせた梱包システムを展示



■ ビジネスの進捗状況（2019年3月末）

- トライアル : 67社 (2018年12月末から21社増)
94台 (2018年12月末から21台増)
- 採用 (累計) : 34社 (2018年12月末から12社増)
159台 (2018年12月末から59台増)

参 考 資 料

© 2019 PALTEK Corporation. All rights reserved.



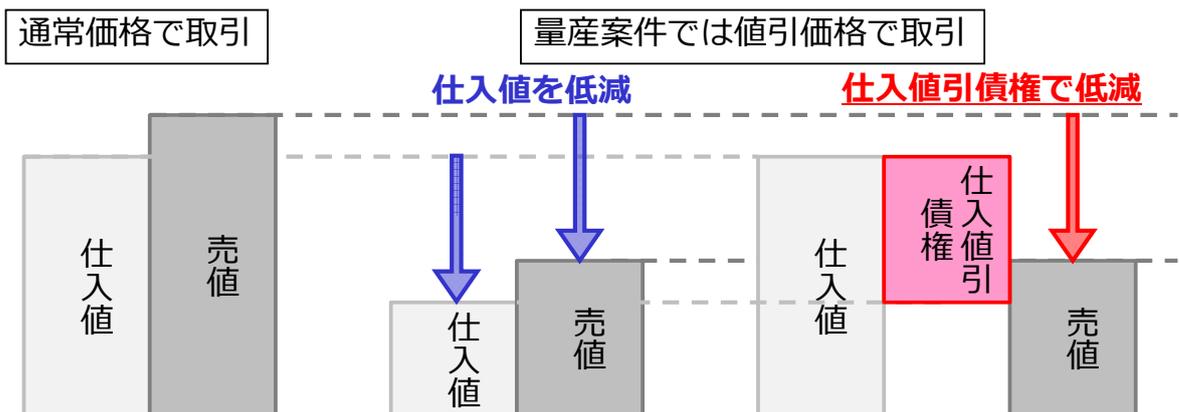
為替変動に関する影響

■ 為替変動により当社グループの利益は以下の4点で影響を受ける

- ① 仕入値引ドル建債権の為替変動による影響
- ② 調達在庫の為替変動による影響
- ③ 決済時のドル調達レート変動による影響
- ④ ドル建売掛金入金時のレート変動による影響

【仕入値引ドル建債権の為替変動による影響】

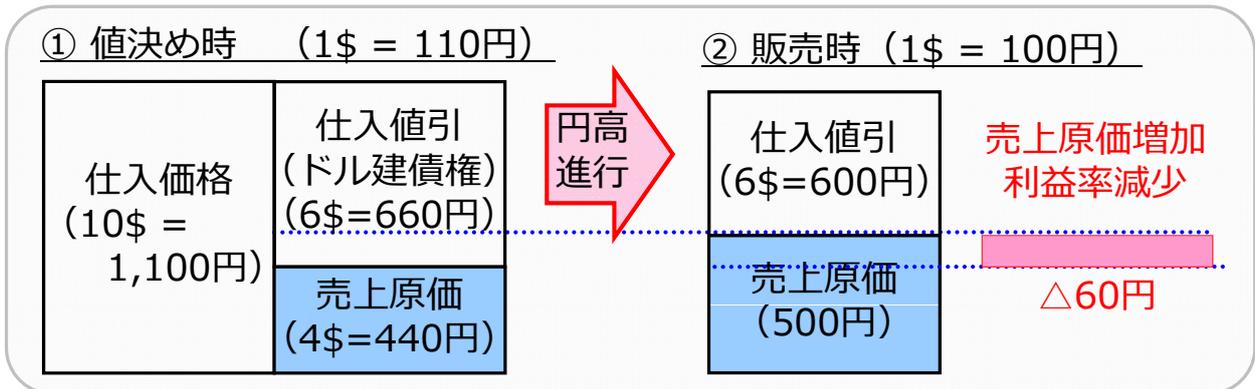
- 当社が仕入先に対して保有する『仕入値引ドル建債権』が、為替レートの変動により評価額が増減することで、業績に大きな影響を与える
- 仕入値引ドル建債権について：
 - ・ 量産案件によっては、通常価格よりも低い価格での販売を要請されることがある
 - ・ その場合、仕入先との間で仕入価格の低減交渉を行う
 - ・ その実現方法は、「仕入値自体の低減」と「仕入値引債権の付与による低減」



急速な円高進行による仕入値引債権の評価額減少

- 仕入値引債権の評価額の増減は、値決め時と販売時の為替レートの差により生じる
- そのため、急速に円高が進行すると、為替レートの差が大きくなるため、仕入値引債権の評価額が大幅に減少
- これにより、売上原価が増加し、売上総利益が減少

例：仕入れ価格10ドルの製品を販売する際の売上原価の変化



37

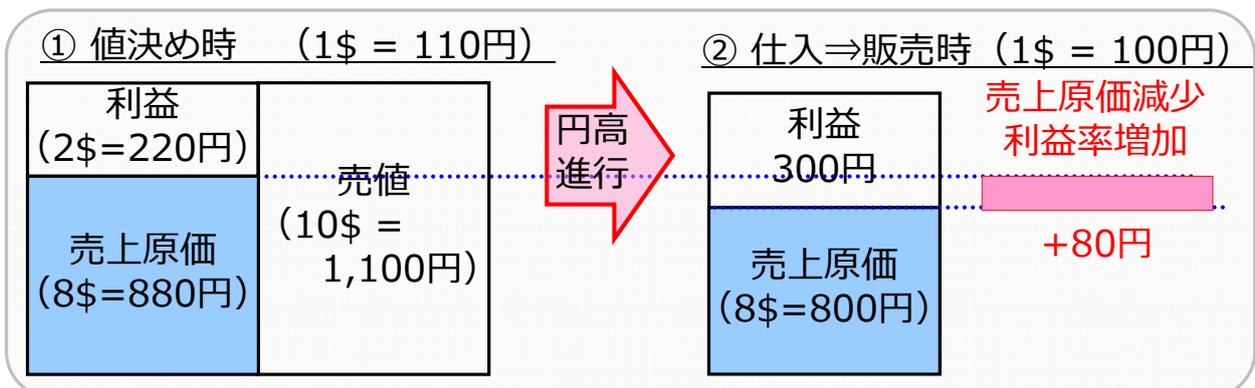
© 2019 PALTEK Corporation. All rights reserved.

為替変動による影響の発生要因②

【調達在庫の為替変動による影響】

- 海外から仕入れたドル建の製品において、為替レートが円高に進行することにより、売上原価が減少し、売上総利益は増加

例：仕入れ価格10ドルの製品を販売する際の売上原価の変化



38

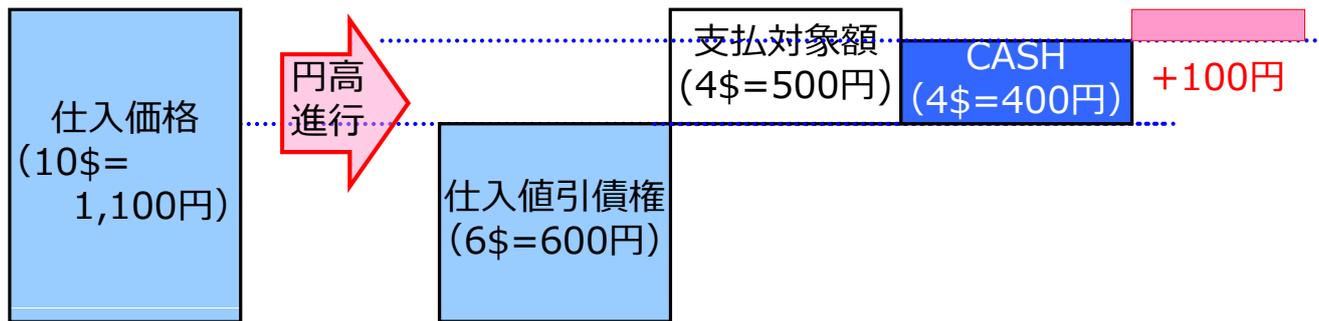
© 2019 PALTEK Corporation. All rights reserved.

為替変動による影響の発生要因③

【決済時のドル調達レート変動による影響】

- 支払を行う際に円高に進行していた場合、ドルを調達する金額が少なくなるため、決済差額が生まれ、為替差益を計上することとなる
- 一方、円安に進行した場合は、為替差損を計上することとなる

① 仕入時 (1\$ = 110円) ② 販売・支払時 (1\$ = 100円)



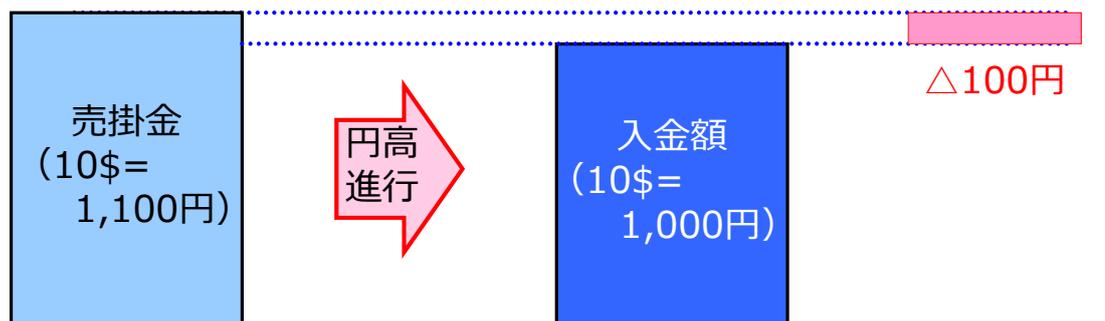
為替変動による影響の発生要因④

【ドル建売掛金入金時のレート変動による影響】

- ドル建売掛金の入金がある場合には、円高に進行するとマイナス、円安に進行するとプラスの影響が発生する（営業外の為替差損益）
- 当社はこのリスクを限定的にするために、為替予約を行っている

① 販売時 (1\$ = 110円)

② 入金時 (1\$ = 100円)



■ 売上総利益への影響額

- Q4の評価レートからQ1における評価レートから円高に進行したことにより、為替変動の影響額はマイナス方向に

(単位：百万円)	18Q1	18Q2	18Q3	18Q4	19Q1
為替レートの変動（円）	113→ 106	106→ (111)→ 109	111→ 113	113→ 110	108→ 110
為替変動の影響（売上総利益）	-148	3	52	59	-63
仕入値引債権の評価額変動の影響	-338	-8	307	341	-396
調達在庫の為替レート変動の影響	189	11	-256	-280	333

■ 営業外損益への影響額（期末評価替の影響は含まず）

- 買掛金支払時のレート変動の影響は、△15に縮小

(単位：百万円)	18Q1	18Q2	18Q3	18Q4	19Q1
買掛金支払時のレート変動の影響（営業外）	88	-19	-89	-34	-15

- 売掛金受取時のレート変動の影響額は、Q4から円高方向に進行したことによりマイナス方向に

(単位：百万円)	18Q1	18Q2	18Q3	18Q4	19Q1
売掛金受取時のレート変動の影響（営業外）	-74	-25	-8	20	-42

(百万円)	2018年12月期 実績			2019年12月期 業績予想			通期増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
半導体	14,681	13,855	28,536	11,700	13,600	25,300	△3,236	△11.3%
FPGA	6,025	5,944	11,969	5,200	5,800	11,000	△969	△8.1%
特定用途IC	2,109	2,262	4,372	1,600	1,600	3,200	△1,172	△26.8%
汎用IC	1,871	1,842	3,713	1,700	2,000	3,700	△13	△0.4%
アナログ	1,133	1,237	2,371	800	1,300	2,100	△271	△11.4%
メモリ	3,541	2,568	6,110	2,400	2,900	5,300	△810	△13.3%
デザインサービス	814	985	1,799	900	1,100	2,000	200	11.1%
ソリューション	89	144	233	400	300	700	466	199.8%
売上高合計	15,585	14,984	30,569	13,000	15,000	28,000	△3,236	△11.3%
営業利益	381	176	558	30	270	300	△2,569	△8.4%

開示区分	内容説明
半導体事業	半導体及び関連製品の販売、技術支援
FPGA	ザイリンクス社のFPGAを中心とするソリューション
特定用途IC	特定用途に特化した半導体を中心とするソリューション (例：通信向け、インタフェース向け、携帯端末向け等)
汎用IC	NXPセミコンダクターズ社、マイクロチップテクノロジー社等の汎用ICを中心とするソリューション
アナログ	アナログ半導体を中心とするソリューション
メモリ	マイクロンテクノロジー社等のメモリを中心とするソリューション
デザインサービス事業	受託開発、ODM/EMS/OEM
ソリューション事業	最終製品レベルでのソリューション提案を実施 自社製品（ハードウェア、ソフトウェア、システム）の 開発・販売

以下の担当までお問い合わせ下さい。

株式会社PALTEK

柴崎 由記 (IR担当)

〒222-0033

横浜市港北区新横浜2-3-12 新横浜スクエアビル

TEL : 045-477-2072

FAX : 045-477-2012

E-mail : ir@paltek.co.jp